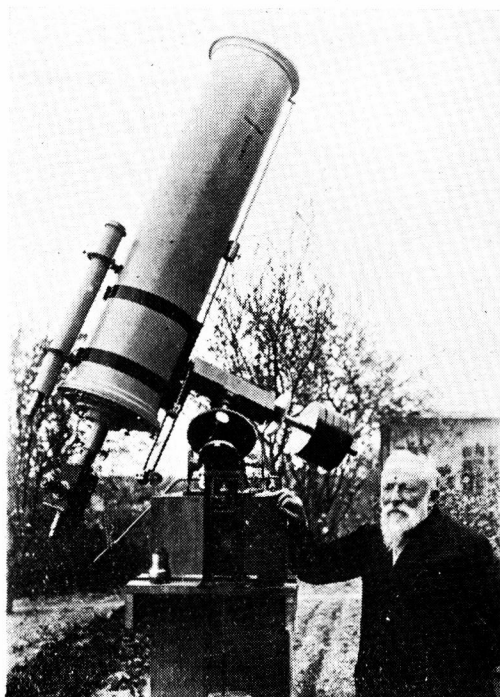


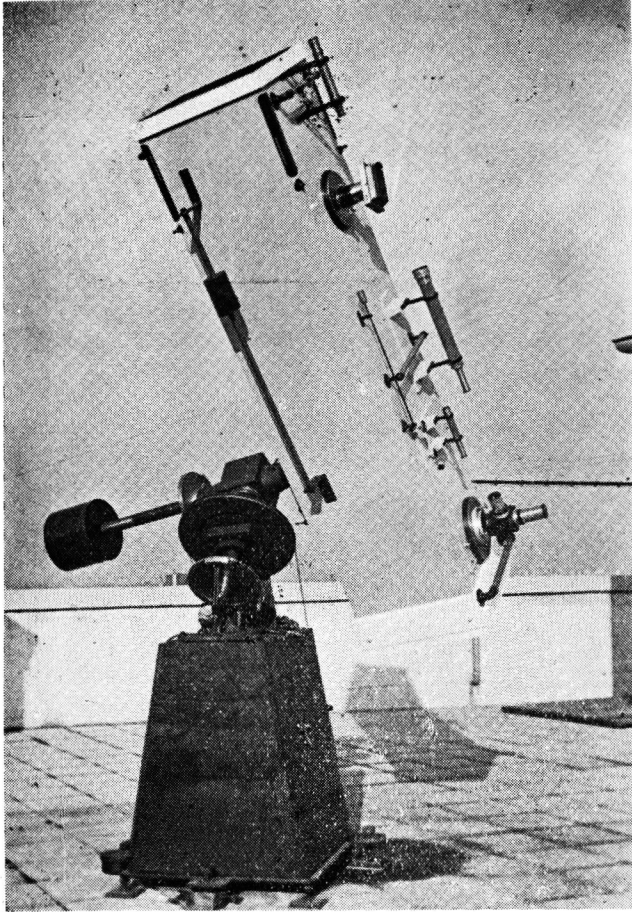
シェール氏の反射鏡

スウェーデン国ジュネーヴ市に居る E シェール氏は、歐洲に於ける反射鏡の製作者として有名である。殊に二年前カルプス氏が死んでからは、シェール氏の地位は重要である。氏は大小無数の反射鏡を作つてゐるが、特に中々大きいものを作る。氏の鏡は一般に短焦點である。

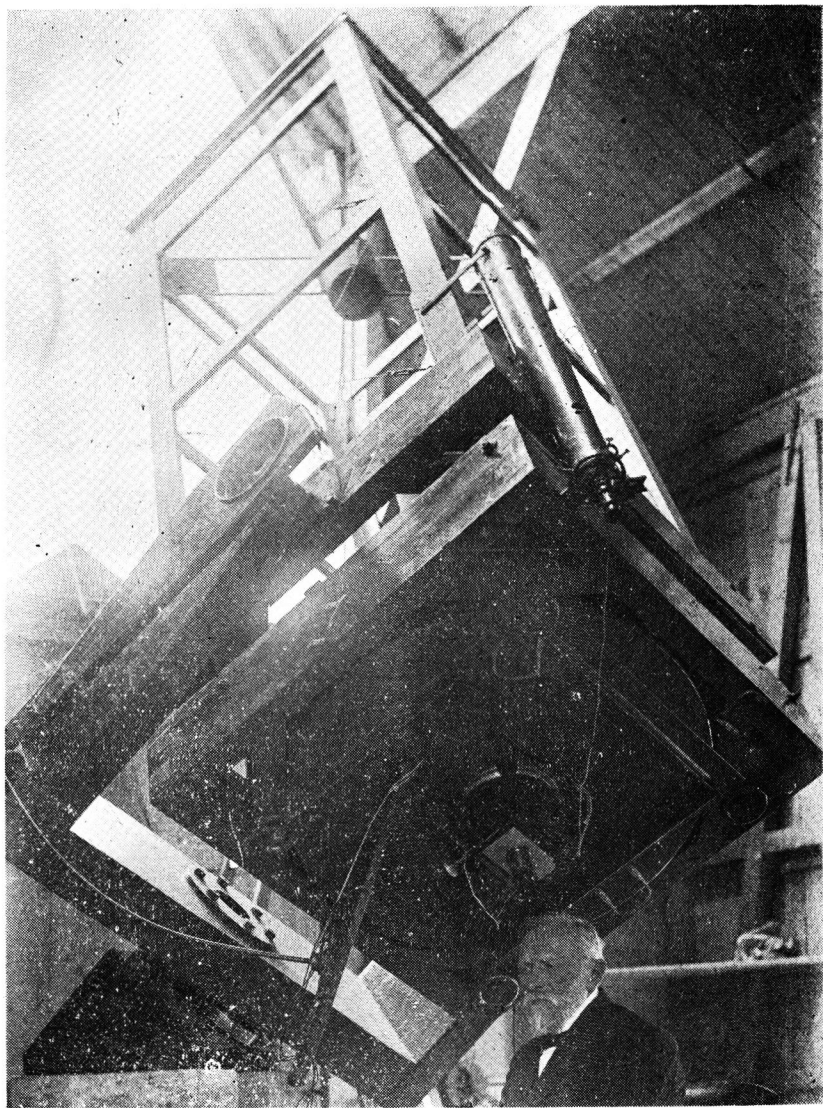
下のものは口径 31 センチのもので、1927 年、氏が露國モスクウ天体物理研究所のために製作したものであるが、其の後、スペイン國ブレンシヤ市のトリゴ氏のためにも同じ大きさのものを作つた。



スウェーデン国バール大学天文臺にある口径 41 センチミリの反射鏡
(1928 年 シエール氏作)



カスグラン式にも、ニウトン式にも用ゐられる。



ジウネーヴ天文臺の百センチ反射鏡
(シエール氏作)

左の寫眞はスキス國第一の大反射鏡であつて、口径 100 センチ、焦點距離 295 センチ、即ち F3 型である。カスグラン式とすれば焦點は 24 メートルとなる。

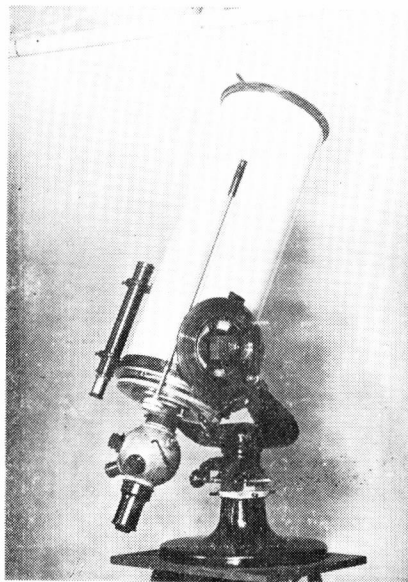
非常に強力な反射鏡であつて、極微光の星雲寫眞などを撮るに適してゐる。

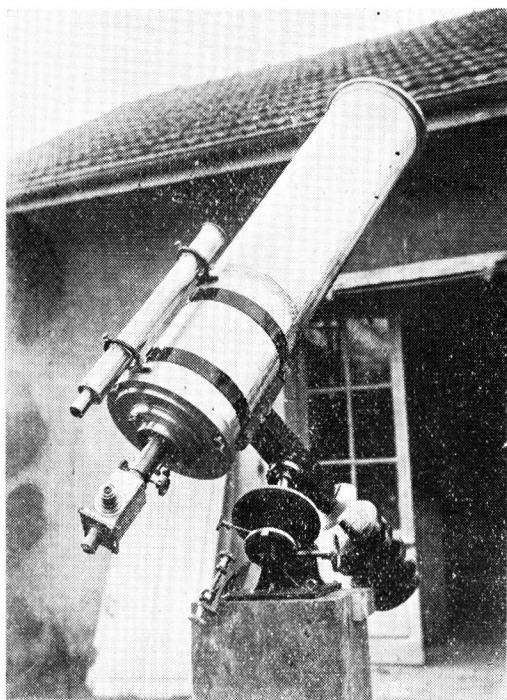
(シエール氏作)

(天界第 53 號第 199 頁參照)

下の寫眞は口径 21 センチのグレゴリ式反射望遠鏡である。

(シエール氏作)





之れは口径 31 センチの
カスグラン式反射望遠鏡
である。

(シエール氏作)

イタリア國のミケリ氏
のために作られたもの。